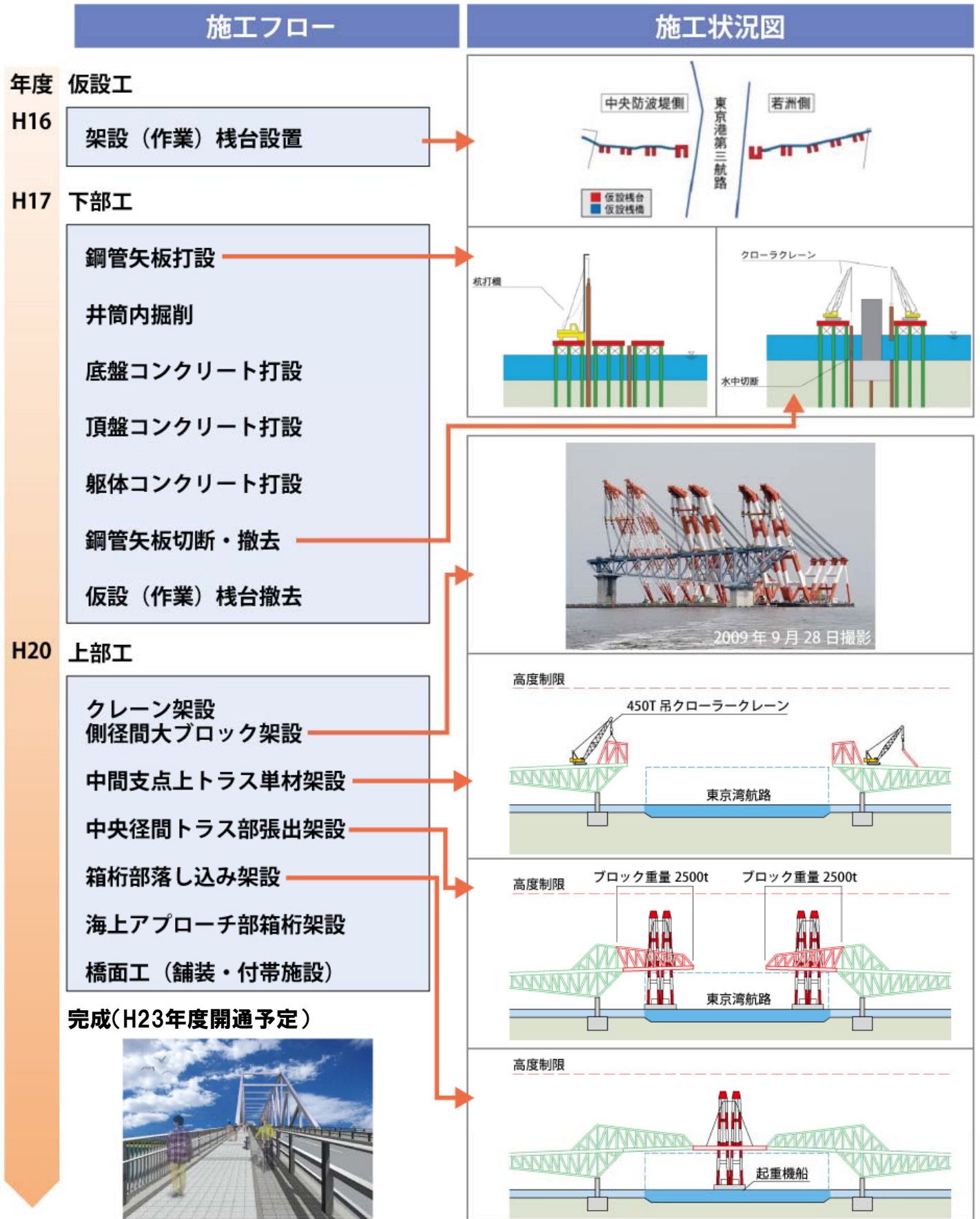
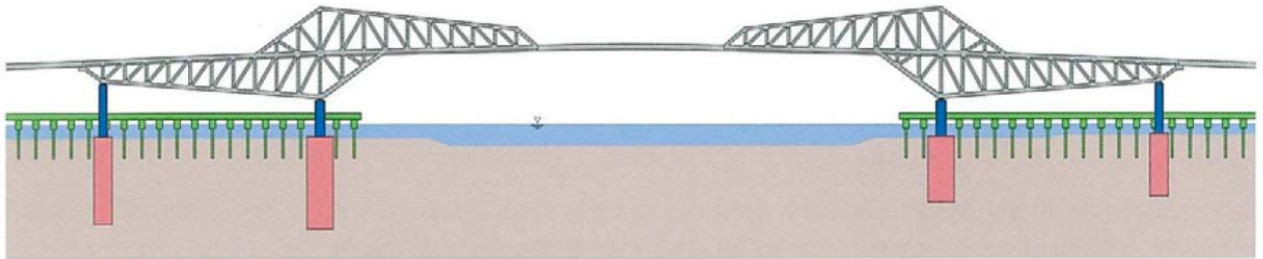


東京港臨海道路Ⅱ期事業の施工・進捗状況

■平成21年9月に側径間大ブロックの架設が完了しました。今後中央径間トラス桁(平成22年5月)、海上アプローチ部箱桁(同9月・11月)、中央径間箱桁の架設を行い、橋面工に進んでいきます。



東京港臨海道路Ⅱ期事業の施工・進捗状況



<凡例> 上部工 基礎工
下部工 仮設工

仮設工

平成 15 年度
～平成 17 年度

東京ゲートブリッジの基礎及び橋脚は、海上に建設されます。
このため、橋脚を設置する場所まで建設機械を搬入するための仮設栈橋、栈台を設置しました



2005.3.30撮影

基礎工

平成 17 年度

橋梁上部や橋脚を支えるための地下構造物を設置するのが基礎工です。
本橋では、鋼管矢板井筒基礎を採用しています。
直径1.5mの鋼管杭を地中に1本ずつ打設して井筒状に壁を形成し、その内部にコンクリートを打設して基礎としました。



2005.10.20撮影

下部工

平成 18 年度

橋脚を整備するのが下部工です。
橋脚は鉄筋コンクリート製で非常に体積が大きいため、数メートルずつコンクリートを打ち継ぎながら製作しました。



2007.2.26撮影

上部工

平成 19 年度

道路部とトラスを整備するのが上部工です。
中央部はトラスボックスという珍しい構造になっています。トラスは大重量であるため、大型の起重機船3隻の相吊りで一括架設しました。

トラスとは? 三角形に組み合わせた骨組みのことです。
東京港臨海大橋は、このトラス構造を採用した橋です。



2009.9.28撮影